

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



郎二山森 兼編輯  
市田上縣野長 兼發行  
校學門專絲蠶上同 所行發  
會町縣南市野長 所刷印  
社會式株聞新日每邊信

### 天與の警告を聴け

我國は今や空前の危機に面してゐる、内にあつては經濟的苦難に喘ぎ外においては國際的孤立に置き去られた、抑も今回の滿洲事變は太平に慣れ遊惰に流れた我が國民への一大警告であり、天意の發現でなく何であらう、國際聯盟理事會における十三對一の票決は、彼等の無力空論を責むる前に何故にかかる結果を來せるかを三思熟考せねばならぬ、事故に至つたのは我國民自らの罪に歸せねばならぬ、往時の日清戰爭にせよ日露戰爭にせよ何れも東洋の平和を確保するために堂々として起された戰爭である、その結果東亞の禍亂を治めるために我國は滿蒙經營に全力を盡したのである、然るに歐洲戰時は餘餘の好況に酔ひ、世を擧げて功利享樂を追ひ、建國治世の大精神を忘れて終つた、大正十二年の大震を入々は天の警告であると言つて怖れた、その記憶も未だ消えないうちに再び遊惰浮薄に流れ、國を擧げて神經衰弱の妄動を續け國民自らの誇りを授けうつた結果は支那を初め

### 賀壽に因みて

賀壽といふこと即ち壽長きを賀するは、高貴の方にあつては四十、五十においても行ふといふが、普通一般には六十一才の還暦祝ひから行ふ、則ち還暦は賀壽の初めに於て最もお芽出度い祝ひごとである、還暦は字の示すやうに十干十二支の組合せによる六十の干支を一巡して再び元の曆年に還ること、これを本卦返りの祝ひとも言ふ、即ちこの世に生れ出でたときの干支に還るので、再び小供に返つたといふ意味を表はすために赤頭巾、赤衣を着ることも行はれる、小供や孫を集めて祝宴を張り、小供から袍衣をお祝ひに贈る

(著名大二三の成に手の窓同)  
山本三六郎著  
化學純絹絲の工業的完成  
工業的完成 ¥0.80  
菅原勇治著  
蠶絲業法規要論  
改正 ¥2.30  
市田上縣野長 所行發  
會究研學科絲蠶 (振替長野6413番)

の賀を祝ふことは眞に意義あることと言はねばならぬ。人の値打は棺を覆ふて知るといふが、すでに還暦迄に行はれた業績に見て、將又内に成された人格に見てその人を知ることが出来ると言へやう。更にまた古稀と謂ふは、七十にしてなほ偉業を成すは稀にして古來の偉人であるといふ意を偶する、賀壽の初めに達成された人格は古稀に至つて更に圓滿なるを壽くことが出来るであらう。(辛未十一月)

### 福井縣下に於ける人造絹糸織物の發達

黒岩 覺

越前羽二重の生産地として其の名海外にまで轟き内地向生糸の消費地として全國に冠たりし福井も數年前より蠶糸業界の不況と糸價激變の爲め羽二重業者は大打撃を蒙り遂に之れに代ふるに人造絹糸織物を以て之れに轉機する者續出し現在に於ては縣下全機台數三万七千台の約六割即ち二萬二、三千台は人造絹織物になり尙ほ此の不況の時期にも不拘人造絹織物業は増加する一方にて本年中には縣下全機台數四萬台になりやせぬかと云われて居る状態である。今福井縣に於ける人造絹織物の發達の経路を記し敢て我々蠶絲業關係者に對し參考に供せん大正五年に縣立工業試驗場にて經絲に二〇〇デニールの人絹糸を使用し絹糸と交織したマドラス織を試織したるに端を發し大正十年には當業者は輸出絹織物に人絹を交織するに至つた然し人絹糸

使用の技術不熟練からくる工賃の割高原料絲の高値等の爲め外國製品との競争は六ヶ敷かつたが當業者の努力は遂に先進の兩毛地方を凌駕して雙人絹織物(平、紋、縞、網、ポイル縮緬、朱子)經人絹織物(紋、平、縞、朱子、縞、チリメン等)緯人絹織物(紋、平、朱子)等の輸出向及び人絹絲交織物等の内地向などにて約三千三百六十萬圓(昭和五年中)と云ふ本邦人絹織物總生産高の三分の一を産出し内廣巾物は本邦總輸出高三千四百九十萬圓の七割四分を占めて二千六百萬圓を數へる人絹王國となつてしまつたのである。斯如く人造絹織物生産高の激増は前申せし如く縣下機台數の約六割は何れも人造絹織物に供せられて居り其の結果自然に蠶糸原料人絹絲の消費量は又驚くべき増加振にて大正十三年以後の消費量を示せば左の如し

年次	消費量(圓)
大正十三年	七、五〇〇貫
同 十四年	三、六〇〇貫
昭和元年	四三、七二六貫
同 二年	二一五、五三三貫
同 三年	五八三、二〇〇貫
同 四年	一四九二、三三一貫
同 五年	二五九四、五一三貫
同 六年自一月至六月	二四、七一六貫

右表の如く消費量の増加は全く驚異的の數字を示し本邦人絹絲生産高の大半を縣下に消費する状態になつた今昭和五年中に縣下へ入荷したる人造絹糸を製造會社別に見ると

社名	数量(圓)
旭 帝 人	四二、〇一七圓
旭 洋	二五、一三七圓
東 洋	三五、五〇〇圓
昭 和	二四、九二二圓
日 本	六、九七八・五圓

日長 二、八九八捆  
倉敷 一五、四四五、五捆  
外人 一二、七九五、五捆  
合計 一六五、六九二、五捆  
と云ふ状態になつて居る。

又昨昭和五年度に於ける縣下の重要な織物原料の消費量を示せば次表の如し。

生絲 四五〇、六一五貫  
絹紡絲 八〇、四六八貫  
柞蠶絲 一八三、八〇四貫  
人絹絲 二、五九四、五一三貫

右表の如く昨年度に於ける人絹絲の消費量は生絲の約六倍にて如何に人絹織物が旺盛なるかを推知することを得。

以上の如く我國人絹生産高の約半数を消費すると云ふ素時らしき發展振りにて之れが取りも亦實に目覚ましく福井市中の活氣付き居ることは一寸市中歩き歩かんか人絹の荷車が右往左往その頻繁さに於て肯定することを得他地方が不況のどん底に呻吟し居る今日福井が割合にその深刻さを感じざるの所以は此の人絹織物の盛んなる爲なりと云ふ。

之等頻繁なる取引の機關としては福井レヨン商組合、福井レヨン同和會、之れに福井特有のオツパ取引等あり之のオツパ取引に就ては種々なる論あり何れ詳述する機會もあらん尙本年三四月頃より問題となりる人絹取引市場も最近大分具体化したるかに聞きを斯の如く福井縣下に於ける人絹織物は生絲及び絹紡絲の域を侵略し輸出羽二重工業組合設立等を尻目に長足の進歩を以て發達し尙今後奈邊迄發展するか全く逆睹し難き状態にある之等の事情に照らし(福井縣下のみを以て論ずるは

早計かも知れぬ)今後人造絹絲は人智の發達と共に愈々改良され生絲に益々近き性質のもの製出され我が蠶絲業界を脅かすものと思考せねばならぬ即ち去る七月一日より宮崎縣延岡町の日本ベンベルグ會社より初賣され目下盛に市場に進出しをる高級人絹絲ベンベルグ絲の如きはデリメン、ジョーゼットに使用され居る

### 滿洲事變の跡を語る

在滿洲 湯川 秀夫

一、奉天の戦蹟を觀る  
○張學良麾下の精銳一萬二千の兵が據つた北大營、それに一億圓以上の巨資を投じた近代兵工廠、飛行機百餘台を有する東北空軍、東北無線電信所及び東大營等は九月十八日より翌日の拂曉にかけ僅三ヶ中隊の日本軍に占領されたのであるが十月十八日奉天の軍部の案内で見物するの機會を得た。

○秋晴れの暖い日である。バスは奉天城外を縫ふて目的地に進む。行人も商賣も殆ど平常通りで平靜である。支那巡査が型の如く交通整理に當つてゐる。舊軍憲や官商には勢權崩壞の深酷な藻掻もあらうが失ふ處なき庶民には苦惱はない全く無關心の態度である。

走る事四十分許りで北大營に到着した。  
練兵場は一キロ四方もあつて廣大なもので眞中に今は主なき張司令の閣兵台が寂しく立つてゐる。  
兵舎の外側は土塀に圍れてゐるが處々に彈痕や孔があいて當時を物語つてゐる。

が殆んど生絲の製品に遜色なきとの評なりかるが故に我が生絲が之等の人絹絲を敵として戦ふにはどうしても蠶絲業の合理的經營に依り生産費を低下し往年の如き高値出現等決して夢見ず眞剣に安價に提供し得る様努力するより外なく我が蠶絲業は前途益々多難なりと思ふ。(九、一二)

土塀の外には一面に百日草が霜にうら枯れて楊柳のみ青々と兵舎を蔽ふてゐる。  
燒落ちた兵舎の傍の楊柳丈け赤く枯れて時々割れたトタン屋根が秋風に揺れてゐるのも又物哀れである。  
建物の側には迫撃砲の彈や未發の小銃彈などが轉つてゐる。兵舎の部屋の中はその當時の儘で取乱された寢具や和綴の漢書などが雜然として散乱して居る。

○事變當時斯付けた兵は彈も少く人数も僅で苦心したそうであるが夜中支那兵は部屋に電燈を消さなかつたので覗撃されて損害が相當多く日本兵の方は闇夜ではあり敵の機關銃の彈も皆頭上を越して損害が案外少かつたとの事である。

當時日本軍で收容して敵の屍丈で四百餘りあつた由、あちこちに埋めてある軍馬や兵卒の屍を野犬でも掘出したであらう。もう白骨に化つて轉つてゐる。之を見ると一ヶ月以前の事變とも思はぬ。何だかズット昔の出來事の様な氣がする。  
兵工廠の設備は素晴らしいもので迫撃砲や投下爆彈の如きはマダ日本軍も有たない新鋭なものであると將校が語つてゐた。

もし彼等が相當の落付きを以つて僅に數ヤロしか離れて居らぬ滿鐵附屬地に大砲を打込んだり飛行機で爆撃したら瞬時に全滅し得たであらうとゾツとした。

#### 二、東北政權の没落

○父作霖以來張家の執政は非道かつた。絶る間なき征戰に誅求を事とし又善良なる人民を勝手に拉致して戦線に送りなどした。それから一方に絶大なる權力を握し他方に官銀號(中央銀行)を操縦して無價値の不換紙幣を濫發して農民より毎年數千萬圓の買占をする等体のよい掠奪である。從來官銀號の發行紙幣の總額十五億圓に上り而も兌換準備の現銀は四百萬圓に足らないのであるから一兩年以來奉天省の紙幣は日本金の百分一以下に下落して仕舞つてゐる。のも當然で東北政權の一つである。

かく庶民怨嗟の的なり張家の政權はおそかれ早かれ没落の運命にあつたのであるが適々九月十八日の事件は是を早める動機となつたのである。

○實にや十八日の砲聲や突撃の叫は舊東北政權没落の葬送曲であつた。  
御大學良氏は完全にロツクアウトされて仕舞ふた。國民政府副司令としてモダン振り華なりしも東の間であつた。彼は北京郊外にあつて蒲柳の身を擁し見果てぬ昔の夢の跡を逐ふてゐる事であらう。

三、東北政治の改造運動  
○滿蒙即ち東北四省は舊政權にびて今や新なる政權樹立に忙しい。三千万の民衆を擁して要人達は更生の惱

を續けてゐる。

東北にはもとゞ國民政府の威令は實質上及んで居らぬのでどうして樹立しは東北の人々の手に殘されてゐるのである。

○奉天の袁金鎧の奉天治安維持會をキツカケに吉林省の參謀長瀧谷は吉林省獨立を宣言し續いて黑龍江省の張海鵬、熱河の湯玉麟は夫々省獨立を宣言してゐる。又別に清朝の末裔宣統廢帝や恭親王などの擁立運動も起つてゐる。

○但し遼寧省(元の奉天省)ではこのうした獨立の形式をとれぬ事情がある由にてその代り省内の各縣がそれ／＼獨立して自治制を布きつゝある。

○東北の中樞奉天城内の自治行政は土肥原大佐が市長として施行してゐたが十月二十日を以つて支那側に引續いた。  
しかし顧問として日本人が残る事になつてゐる。官銀號等の金融機關も滿鐵の手によつて改造されて先般開業された。

支那側の電燈なども着々滿鐵側に供給しつゝある。  
最近滿鐵の大幹部、中幹部處は奉天に總出の姿で新しき東北政治の立直しに夫々アドヴァイスしてゐる。何れ懸案の小問題は此際片付く事であらう。

○上田市出身の滿鐵衛生課長金井醫學博士は氣鋭の士であるが滿鐵幹部の態度手緩しとばかり會社に缺勤届を出し自分の率ゆる政治團體滿洲青年聯盟の幹部を引具して奉天に乗り込み支那側の〇〇鐵道を動かしてゐる。之なども改造劇の一挿話であらう。

四、此のあとに来るもの

以上の如くマダ改造の途上にあるから斷言は出来ぬが政体は結構獨立した各省の聯省自治共和國となり從來の經緯より軍備は日本之に當り從來空しく費された數千萬圓の軍費は財政、産業等に振向け日本人のエキスポート指導の下に善政主義により行はれ現在の東北の支那側の鐵道は滿鐵と共同經營と言ふ事になり、從來邦人農業發展上の増であつた商租(土地租借)問題も實質的に解決され日支共存共榮の農業的樂土が出来上りはせぬかと豫想される。

(十月二十三日記)

將來滿蒙は國防上、經濟上産業上國民の關心を要するグアイタルな處と思ふから今後時々本誌を借りて農牧方面その他緊要問題を報道し度いと考へてゐます。

### 植物とところ

(その三)

暗くなつてから老神溫泉に到着して谷底の湯に一浴した今日の一日は大分難コースであつたが植物は大分あつた。赤城で花の咲いて居つたのは。

ノリウツギ、ムラサキ、マ、コナ、スズサイモ、ノギラン、ヒメノガリヤス、シモツケ、ウツボグサ、トリアシシヤウマ、チダケサシ、クサアジサイ、シロバナコメツ、ジ、ナツツバキ、ユワケウメ、タカネオミナエシ、タカサゴサウ、ミヤマオグマキ、コメス、キ、キンボウゲ、バイケイサウ、ウメバチサウ、コメダサウ、ヤグルマサウ、ミヤマカラマツサウ、ヒメヘビイチゴ、ヤブカンゾウ、クルマユリ、クカイサウ、テンナンシ

## 第三回蠶絲科學講演會開催

(再録)

前號廣告の如く左記により針塚先生還曆祝賀會並に第三回蠶絲科學講演會を開催致します。已に御承知の如く此の講演會は昨年度代議員會の決議に基き針塚先生の還曆を記念するため開催せらるゝものでありまして祝賀表現の形式としては時節柄頗る質實なる方法ではあります。次に祝賀式は二十二日(代議員會當日)に取り行ひ針塚先生並に御家族を御招待し母校諸先生の御参列を仰ぎ胸像を贈呈し加て、簡單なる午餐會を催す計劃であります。

就ては此の不況時に際會し萬事御多用の折柄とは存じますが如上の趣旨に御賛同被下萬障御繰り合せ御來會を切望致します。

追而準備の都合もありますから祝賀式参列の方は其旨明記して御通知煩し度尙御希望により御宿泊所の準備をも致します。

### 一、代議員會並に針塚先生還曆祝賀式

十一月二十二日(日曜日) 午前九時より祝賀式 午後一時より代議員會

### 一、講演會 (會場母校講堂)

#### 第一日目

十一月二十三日(斯嘗祭) 午前(自午前九時正至正午)

蠶の白爛病菌の生態並に防疫に關する研究(二時間) 長野縣蠶業試験場技師 勝又藤夫氏  
蠶絲業の改良と蠶絲科學(二時間) 農林省蠶業試験場技師 平塚英吉氏  
蠶絲業の不況と其の對策(二時間) 農林省蠶業課長農學士 明石弘氏  
養蠶業經營の本質と其の指導原理(一時間) 蠶絲業同業組合中央會參事 野崎清氏

同 日

午後(自午後一時至四時)

蠶絲張力に關する研究(一時間) 上田蠶絲專門學校教授 林貞三氏  
塩酸孵化の原理(二時間) 京都高等蠶絲學校教授 三浦英太郎氏

#### 第二日目

十一月二十四日(火曜日) 午前(自午前九時正至正午)

生絲相場論(二時間) 東京高等蠶絲學校教授 福本福三氏  
ゼラチンとゼリシンの化學(二時間) 上田蠶絲專門學校教授 金子英雄氏

同 日

午後(自午後一時至五時)

案内狀は斯業に關係ある諸官廳、學校、工場、會社等へ送附致して置きましたが會員以外の御知己等にして希望者がありましたら極力御勸誘願ひます。聽講者資格に制限を設けず會費を徴收せざることを致しましたから御含みの上多數出席方御配慮を願ひます。

尚プログラムが出来て居りますから御入用の節は御申越し下さい。

ヤウ、ハタザオ、オホヤマフスマ、ヒレハリアザミ、チシマフウロウ、イワガラミ、

今少しで咲くもの。

ウスユキサウ、コトリトマラズ(雌)オタカラコウ、メタカラコウ、コバイケイサウ、シギンガラマウサウ、

果實を見たもの。

イヌシデ、ヤシヤブシ、ムシカリエンレイサウ、ヒヤウタンボク、シロバナヘビイチゴ、

花も果實もないもの。

シラキ、サンザシ、コオニユリ、シロヤシオ、フクオウサウ、ノゴソウ、アオヤギサウ、クルマユリ、ハンゴンサウ、カメバヒキオコシ、ヒレタマブキ、キオン、バイカウツギ、クマシデ、アサヒラン、ヌスビトノアシ、ユキワリシボガマ、イワギボウシ、ヤマラツキヨウ、タツノヒゲ、

◆

七月七日老神を出發して追貝に出た鎌田に出て鎌田からいよいよ尾瀬沼行きの小徑に進入した。越本で饗食、戸倉からはもう民家が無い。戸倉から二里半山徑を巡つて、途中双龍の瀧を賞しやつとの事でネバ澤の溫泉に到着した。主人公一人きりしか居らぬ溫泉宿である。

◆

七月八月、愈々今日こそ神秘境尾瀬沼へと心も足も軽く、三平峠を越へて尾瀬沼へ向つた。

昨日から今日の三平峠迄の植物を整理して尾瀬の夫れとはつきり區別せねばならぬ。

三平峠迄の植物は。

ツマドリサウ、ムシヤリンドウ、

ド、ヲスバキスミレ、ミヤマカタバ

する事が出来た。今度の御旅行は

文けた時間で大津から御伴を  
か出來た。今度の御旅行は會

森田三郎氏——豫想と實收とは毎年

違ふが、それはどういふわけでせうかね。不思議なことには豫想よ



りも實收の方がいつも多くなつてゐますがね。どういふわけですかね。

野崎 清——豫想では内輪に見るためぢやないかね。

森田三郎氏——それがいつも十に出たてに出来ないといふことはどういふわけですか。

武本治氏——實際の掃立枚数よりも少ない掃立枚数を報告してゐるためではないですか。たとへば事實七枚掃立たものを五枚掃立たといふやうに報告して。

(この時筆者は椅子が滑つて見事に尻餅をつく。一同ドツと笑ふ)

高島秀男氏——どうも現在の統計といふ奴があてにならぬ奴で、例へば千葉では統計課の調査では前年に比し六厘増といふことになつてゐるが、蠶絲係の方では前年より一割五分減といふことになつてゐる。ところが同じ縣當局の發表で統計課の方と技術家の方とがまるで、逆な發表をしてゐるので新聞ではこの不徹底を盛んに攻撃したといふわけだがね。僕の考へでは技術者の統計の取り方が正しいと思ふ。何となれば第一技術員會議の結果がそれを證明し、第二に繭市場の當事者もこれを認め、第三に桑園反別が減少してをり、第四に施肥の不足のために桑が出ない等の理由からして、どうしても今年には前年に比し繭の産額が少ないと云ふことになる。

それから農林省の出した今年の夏秋蠶掃立豫想の数字と大日本蠶糸會の出した夏秋蠶の繭の収量とは非常な開きがある。僕の考へでは農林省の調査よりも大日本蠶絲會

の調査の方がいいと思ふ。何故かと云ふと農林省の調査は實質上の素人がしたものであり、大日本蠶絲會の調査は實質上の素人がしたものであるからだ。より詳しくいふと農林省の場合であつて見れば、各地方の統計官が單に蠶絲家の申告そのまゝを取纏めたものだから誠にあやしい。地方にゐて見れば、其邊の様子がよくわかるが、蠶絲家はありのまゝを申告してゐるものは誠に少ない。ところが大日本蠶絲會の方は支人である地方の技術官が四圍の状況を考慮に入れて見積つた数字だ。だから農林省の調査よりも大日本蠶絲會の調査による数字の方が眞に近いと考へる。

宮前邦雄氏——郡役所のあつた時代には統計方面の人と技術方面の人とが、話し合つて、間違ひの少ない数字を出されたやうですが、郡役所がなくなつてからはこの兩者の計算が往々一致しないやうですな。

武井光雄氏——農林省では農林省の調査による昨年の数字を基礎として、夏秋蠶掃立豫想を一割二分減と發表してゐます。また大日本蠶絲會では蠶絲會自体の昨年の数字を基礎として今年の夏秋蠶を二割四分減と發表してゐます。ですから、この場合或は大日本蠶絲會の数字はそれ自体に於ては正しいかも知れませんが、又それと同様に農林省の数字もそれ自体としては正しいかも知れませんが、それなのにこの基礎統計の違ふ兩者を比較して、減少歩合が多いとか少ないとかいふことは當を得てゐないやうですな。

野崎 清氏——その通り。基礎統計の違ふものを比較することは出来ない。

(この時大日本蠶絲會の基礎数字たる昨年の数字は農林省の昨年の掃立實数を基礎としてゐると説明するものがある。)

武井光雄氏——農林省の数字を基礎とするならば尙更兩者を比較することは不都合だと思ひます。何故かと云ふと、農林省の統計は大日本蠶絲會の調査統計と全然異なるものですから、眞の實数とも大きな差があるものと思ふなければならなりません。

高島秀男氏——何れにせよ、増減歩合の正しいことは技術者筋の方が確だ。

管原勇治氏——(惠比壽様の様な顔をして)要するに統計なんておかしなものだ。

森田三郎氏——私の考へでは農林省のものもあてにならないと思ふし、又大日本蠶絲會のものも大同小異だと思つてゐます。私は嘗て外國人に對して、日本の統計は正確なものだといつたことがありますが、實は誠に不正確なもので、この點は實に遺憾だと思つてゐます。米國では需給の統計は必ず一ヶ年おくれで、同じ日に發達してしまふやうな收支計算をしてゐます。ですから今何程の生絲が残つてゐるかといふことはちゃんとわかつてゐます。然るに日本では差引勘定が書いてない許りか、統計發表の日が一定してゐませんので何が何やらちつともわかりません。この點、日本は大いに米國に學ぶべきだと思ひます。

内藤良雄氏——私の調べたところによると、大日本蠶絲會の調査は地方的に見れば高低の差が甚だしいやうですが、農林省のものはさうではないやうに思はれますが、この事實からすれば、農林省の調査にも信頼をおいて差支ないやうに思はれます。

野崎 清氏——聞くところによると驚いたことに、何處かの府縣では四十歳もあるものを二十八歳として計算したものがあつたやうだね。

森田三郎氏——蠶作問題はその位にしまして、實は非常に飛び離れた問題ですが産兒制限の問題にしたいと思ひます。

原田兵衛氏——そりや若いものに聞いた方がいゝだらう。

武井光雄氏——いや先輩に經驗談を聞きたいものです。

森田三郎氏——コントロールの具體的の道具については如何でせうかな。

管原勇治氏——基督教女子青年會館でこの問題の討議は差支ありませんか。(一同ドツと笑ふ)

伊藤勢雄氏——座長から如何。

高島秀男氏——カイより始めよ。

管原勇治氏——瞬間の忍耐にあり。

唐木田藤五郎氏——蓋し名言なり。

(この先を書きとめると風俗變亂。森田三郎氏——それではもう時間も大ぶおそくなりましたから、座談會はこの邊で打ち切ることと致します。どうも御苦勞様でした。□書き落したところが少なくありません。尙發言された方もまだ澤山ありましたが、筆記してゐるうちに、つい書き落してしまひました。尙この筆記につきましても或は間違つてゐるところがないとも限りません。何れも筆者の責任です。まちがつてゐたら御許し下さい。——確水

### 京都 (第二回)

U に興ふ

おい。

貴公が四國の山の中へ這ひ込むやうになつてからそろそろ二ヶ年になる。どうしたわけだか貴公と俺とは妙に腐れ縁がつながつてゐて閉口する。上田で六ヶ年、京都で三ヶ年、よくもまあ、斯う腐れ縁も續けば續くものだ。この調子だと腐れ縁のままで冥途まで一緒だかも知れぬ。本當のことをいふと貴公と一緒に冥途へ行くことは眞にばらだ。彼の女とならばいゝがな。

午前五時半。

おれは今この通信を蒲團の中で、長くなりながら書いてゐる。昨夜餘り寒かつたから夕飯を食ふとすぐねた。さうだな、六時頃だらう。そして今朝は莫迦に早く眼がさめた。ところが蒲團に寒くてどうしても起き上る元氣がない。

「エ、やかましいからこのまゝ書いて了へ」と覺悟をきめて蒲團の中で書いてゐる。失敬な奴だと思つたつて俺は知らぬ顔をしてゐるぞ。

さうだ。今朝のやうに寒い朝だ。清瀬で會をやらかしたとき、三里だか四里だかの山路を歩き通しに歩いて來たら、朝の三時頃漸く京都へ着いたことがあつたが、貴公はそれを知つてゐるだらう。それで、出町の橋へ來て俺が妙な風影をしてゐたのでボリにつかまつたことをな。あの時はおかしかつたな。若し貴公のやうな制服制帽の、立派な大學生が傍にゐなかつたとしたら、それで若し

あのとき、貴公が一生懸命おれのた  
めに辯解して呉れなかつたとしたら  
おそらく俺はポリに引つ張つて行か  
れたらうよ。

十三三のおかつばの娘を描いて、その空いたところへ「閑静なお部屋が開いてゐます」と書き添へてある廣告——勿論若い女性の筆蹟で——を見つけて、先づ眞先に吊り込まれて這入つたのが俺だ。ところは北白川追分町の下宿屋櫻楓館。と間もなくその同じ下宿へやつて來たのが貴公。多分貴公はそれのとき俺の一つおいて隣の部屋にゐたと思ふがどうだ。

貴公は勉強家で勉強許りしてゐたが、俺はなまけもので、よく蒲團をかぶつて寝てゐた。貴公はスマートな大學生だつたが、俺は時代おくれの、うすきないソフトに、これもうすきないセルの着物で、皺くちやな古新聞紙へ、髭のたんと生えてゐる草履を包んでは學校へ出かけた。ほんにあの頃の貴公と俺の寫眞でも撮つておいたら、さぞ面白いだらうがなあ。惜しいことをしたなあ。

それから貴公とはよく散歩に出かけた。貴公がシャーンとすましてステツキをついて、四角の帽子を頭の上へのつけて氣取つて——氣取つてゐなかつたかも知れぬ——歩いてゐる傍を、おれはうすきない高下駄で、細い紐のやうな帶を締めて、懷手をしながらつて行つた。それも今思ひ起すと面白いぞ。その外貴公の觀察によれば、多分俺の行動にはふき出すやうなことが多かつたらうが、ばく露されると俺の人格が台

なしになるから、友人のよしみで  
ばく露戦術だけは採らぬやうにしる  
よ。

話は櫻楓館へ戻るが、がまの繪ばかり描いてゐた主人は今頃はどうかしてゐるかな。三十年も年若いその妻君はどうしてゐるかな。それからその大切な一人娘がルンゲで死にさうだと聞いたが、今頃はどうかしたかな。貴公は京都へ時々行くさうだから、今度行つたらその消息を知らせろ。間違へるな。消息を知らせろといつたところで、俺の人格を疑ふぢやないぞ。俺の人格には一點の非難の打ちどころもないから。

俺が櫻楓館を去り、續いて貴公が櫻楓館を去るやうになつてから、貴公と俺とは交渉が少くなつた。兩極的な男二人が四條通りや京極をぶらつく姿が見られなくなつたわけだ。時々學校で顔を見合せるに過ぎなくなつた。

尤も貴公はキマジメで、學校を休んだことはないらしいが、それとは逆に俺は學校を休んでばかりゐた。病氣で休んだりサボツたりで、三ヶ年間で俺が學校へ顔を出したのは正月一年をこそこだらう。従つて貴公との交渉はいつも疏遠ではあつた。然し貴公の顔を時折學校で見るとやつぱり俺は嬉しかつた。貴公のスマートな姿に接すると俺はいつもなつかしさを感じた。貴公のまめめめしい姿を見るとうれしかつた。

貴公は實驗室でよく顯微鏡をのぞいてゐたな。蠟でかためた生殖細胞

とやらを、ミクロチームとか何とかいふむづかしいキカイでござんでゐなぢやねいか。それで、それを板ガラスの上へ並べて、まるで活動寫眞のフィルムのやうなかつ好にして、子供が喜ぶやうに喜んでゐなぢやねいか。いまだにあんなことをして喜んでゐるのかい。御苦勞なわけだ。そのころ俺は學者の卵なんて困りものだと思つてゐた。それもいゝさ。しつかりやれよ。

貴公はいま四國の山の中から出た  
心でいつばいらしいが、それでも  
俺が就職出来ずに、貴公が卒業をす  
ると直ぐ就職したときは羨ましかつ  
たぞ。

今年の就職難も随分ひどかつたらしいが、來年も亦思ひやられるぞ。來年の三月は今年に輪をかけたやうにひどいかも知れぬと俺は思つてゐる。困つたものだが致し方がない。

それから貴公も經驗したらうが、就職のことで「昨年の就職難は實にひどかつた」と知人に話すと「そんなにひどかつたのか」と問ひ返す者が意外に多かつたのは驚いた。好景氣時代に安々と就職した連中が、就職難を不思議に思ふのは不思議はないが、それにしても社會的認識不足には驚き入つた。

おい、東京は寒くなつたぞ。そちらはどうだ。炬燵がほしいぞ。炬燵が。俺にはやつぱり炬燵がいゝ。京都の炬燵のない生活には閉口した。とりわけ下宿生活に炬燵のないことと來たらつくづく厭になつた。おかげで俺は京都ではよく病氣をした。

四國の山の中には炬燵があるか俺はいまどうにか苦面をして炬燵を買ひこむ算段をしてゐるぞ。炬燵を仕入れて來たらゆつくり手紙を書くが、こんなに寒くなつちや手紙を書くのも憶効だ。尤も彼の女ならいとやせぬが。

學校たより（十月中）

本月の運動行事は一年中一番多く、教務課発表の豫定によると十六日が運動會準備で休み十七日旗日十八日運動會十九日は臨休二十一日は演習準備で休み二十二日から二十五日迄野外演習二十六日臨休製絲科三年は二十八日から三十一日迄修學旅行十一月一日日曜二日体育デー三日明治節とあるから學課の休講が非常に多い、學生は此等のプログラムが濟まない内は勉強が手につかない甚休みや放課後には各科毎に陣取つて鉦や太鼓を叩いたり拍手やコーラスをして應援の練習に餘念が無い。

運動會(十八日) 前日の空模様を受け曇り勝ちではあるが極めて靜穩な絶好の運動會日和である、人出は實に素晴らしいものであつた、午後に及んで詰めかけた群集はグラウンドを十重二十重に取り囲んで餘すなだれが櫻の木の上迄匂ひ揚ると云ふ盛況である尤も之は空の開場式に出かけた人あしを振ぎ止めた點もあるが前晚各科應援團の無邪氣なデモが市内を練り歩いて好奇心を刺戟した効果も亦見逃がせない市内や近郷の人々は運動會其のものよりも應援ダンスの面白味により多くの關心を持つて居、今では此の地方の一人物と化して了つた、プログラムは殆ど前年と同じく別に大した珍趣向も無い應援團は相變もずな服装で各所に割據し熱狂的な應援ダンスを亂舞し觀衆の視聽

を集めて居た。

[illegible]

かくて王冠は髻蠶部の頭上にひらめき暮色靄然と迫る五時終了を告げた。

野外演習(自二十二日至二十五日四日間)  
野外演習は飯綱原から戸隠山腹に於て實施され、田中中佐總指揮の初舞臺である。本年から此の演習に軍人關係の職員が參加することになり、同窓北澤窪田北原、三豫備少尉がサーベルをツルクツテ一方の旗頭となり演習地指して出發した。

第一日目母校出發長野下車全軍を紅白の  
二小隊に分け飯綱原の清澄な秋の野を演  
習して駆け廻ぐり戸隠中社に着泊  
第二日目中社出發表山奥社頂上を極め其  
所で井上先生お手のもの地質、岩石、  
山の由來を聽き下山再び中社着泊  
第三日目中社出發山腹にかけ渡された嶮

阻な急坂の攻撃演習を行ひ三度中社に歸へり宿泊此の夜大々神樂の奏樂をきいたが殆ど演劇に近い迄に現代化(?)された舞樂と深山にはふさはしからぬ美しい巫女さん連の存在に一驚を喫つた。

第四日目下山歸校  
此の四日間は信州獨特の小春日和で近くは錦繡の黒姫戸隠の諸山遠くは白衣一連の日本アルプスを紺碧の天空に眺め見ることが出来思ひ出深い印象であつた。  
上田松本長野麗絲關係庭球リーグ戦（二十五日）長野縣廳在職の斯道の權威者が主催して標題のやうな庭球リーグ戦が成立した資格は在市麗絲業官衙の在職者に限り一市から七組づゝ選抜し神宮ルーに依る點取りのカップ爭奪戦である、會長には針魚母校長副會長には水野國立

試験場松本出張所長、高橋寛経課長が推戴されカップは松本市普及部の寄附になつたものである、上田市からは母校から四組試験場から二組半取締所から半組七組を混成して本日長野市縣廳のコートへ出場第一回戦が行はれた。

ゲームは頗る珍妙な結果に終つて松本と上田とが同点になつて了つた。

長野對上田 一〇對二六  
長野對松本 一〇對二六

規則に依ると二組宛の決勝戦を演るわけであるが兩市協議の上カップは長野へお預けし仲よく引きわけに決つし懇親の意を取り結んで決めた、來春は上田が主催地に定る此日集つた同窓は依田、金崎、安川、小林、齋藤、宮澤、竹内、熊谷等の選手と長野では松村、鶴田、岸の諸氏を始め殆ど全部同窓の應援(?)に並んで御款待を受けていさゝか恐縮した、學校では石倉、佐藤利、清水、小澤、若林、倉澤、和田、成瀬諸氏の遠征である。

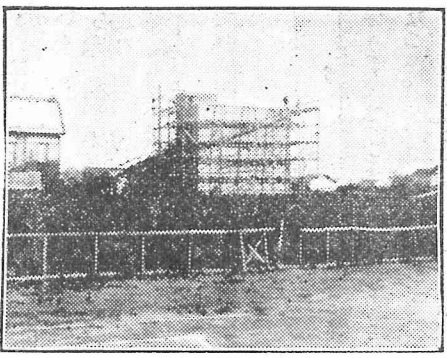
松本高等校對柔道試合(二十七日) 本日恒例の松高との對柔道試合が行はれた、成績は引分六本負四本勝一本敵に主副兩將を残して敗退した、大變に香ばしからぬ成績であるからこゝろみに本校の主將に聞いて見ると其答へに松校は依舊柔業に勝れ本校は立業に勝れてゐる其所で勝負が余り長くなるから不利と知りつゝも柔業に應對して術中に陥入るためだと云ふ、立業柔業を平均して秤量するとはるかに母校が上手だとの自稱である、川柳に「定石はこうだと負けた方が云ひ」に終らざるは幸ひである。

本年他校とのマッチを通覽すると野球が一回長岡に勝つたきり他は悉く美事に敗退して居る、校長は常に「正々堂々と戦へ結果は毫末も齒牙にかゝるに足らない」と訓戒されるが戦ひに不正の無い限り失張り勝つて貰つた方が氣持がよいやうである。

飛行場(十七十八兩日) 飛行場が市

營として正式に認可されたので上田市では陸軍機民間飛行士を招待して其の開場式を兩日盛大に執行した、當日來場の飛行機は二十余臺で高等飛行の妙技から夜間攻撃演習迄して見せた、殊に十八日には母校々庭運動會があり松竹と上田俱樂部の野球があり大賣出しがあり興業物の數々等が澤山あつて近郷の其道のファンを吸収し無慮十二万の出入と言はれ開市以來の雜沓を呈した。

祝賀式講演會に關しての御願ひ  
前號豫告の祝賀式代議員會並に講演會は愈々今月に迫つた即ち二十二日午前に針塚先生に對して南桑園中圖書館の西端に續いて建築中の書庫、左に見ゆるは新講堂なり。



塚先生還暦祝賀式を舉行し午後代議員會二十三、四兩日講演會を開催する、祝賀式には御家族並に母校教職員の御参列を請ひ式後簡單な茶會を催す豫定である、會場には昨年新築なつた新講堂を畫會々場には武道場を設けるつもりである。今回は相當多數の會員の御來會を得ることと思ふが準備の都合等例へ一人でも御参列の余裕を失ふやうでは實に遺憾であるから出席の各位は此際至急御報告を煩したい殊に畫會の會場が校内にあるから突然の御來會者に對して無制限に準備をして置くことが出来ない故

に畫會の御出席は其旨御附記願ひ度い。

次に宿泊所に就て御希望の向には可成御便宜を御取計ひ致し度いつもりであるから遠慮なく御照會を請ふ。

各係は次の如くである。

- 一、祝賀式係  
主任 林 貞三  
係 齋藤、窪田、宮澤、垣内
- 二、講演會係  
主任 蒲生俊興  
係 加美、鶴田、小林繁、高木、山口、永井
- 三、代議員會係  
主任 倉澤美徳  
係 竹内、安岐
- A、會場係  
主任 北澤周一  
係 和田、河田、山本、中村、宮坂、高瀬、宮下
- B、記録編纂係  
主任 森山二郎  
係 萩原、野口、北原
- C、講師接待係  
主任 高木三治  
係 加美、齋藤、飯嶋、猪坂、濱井、川船
- D、接待係  
主任 平澤 勝  
係 尾藤、北澤孝、熊谷、氏家、中澤、佐藤
- E、受付係  
主任 須田圭二  
係 三輪、林太郎、金澤、鷹野
- F、筆寫係  
主任 坂本孝子  
係 田玉、六川
- G、庶務係  
主任 倉澤美徳  
係 田玉
- H、會計  
主任 林 貞三  
係 窪田、鷹野

### 紀念講演集發行について(豫約募集)

本月二十二日行はる針塚校長還暦祝賀式に續きて同二十三日、二十四日の兩日に涉り別項の如く講演會が催される、その講演集を發行して針塚先生にも贈呈し併せて會員の希望者にも頒たんと豫定である。

就いてその代價に關しては印刷所と交渉中であるが大體二圓から二圓五十錢位に止めたいと思ふ、而して會員には書肆にて發賣する代價より幾分の割引をすることが出来るであらう、又更に豫約金一圓を前納する方には會員と會員外とを問はず更に割引すべきことを約するものである。

豫約金納入は即日受付を開始します、講演集豫約金の旨明記の上振替口座東京第四三三三三一番へ御拂込下さい。

### 辭令

- 公立實業學校教諭 田附 一郎  
七級俸(當分千五百七十圓)下賜(九月三十日福島縣)
- 群馬縣立蠶絲學校教諭 小 澄 晋  
陸軍砲兵少尉正八位
- 公立實業學校教諭 任ス  
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
- 地方農林技師 小 林 庸  
十級俸下賜(九月三十日青森縣)
- 公立實業學校教諭 小 澄 晋  
七級俸(當分千五百二十四圓)下賜(十月二十一日群馬縣)
- 正五位勳四等 川 瀬 惣次郎  
敘從四位

### 編輯室より

本月は針塚校長還暦祝、同紀念講演會がある、又編輯子が時報を引受けてから滿一ケ年になる、更に同窓會代議員會も開かれる、多忙な月であるがまた多感な編輯子でもある。

生憎世は不況、加へて支那問題等の悩みもある巻頭に駄句つたやうに緊陣一番を要する秋である。

金輪再禁止も問題になつてゐる、他方豊橋地方の製絲工場が鶏舎に早替り、昨日は工女のデカタン式流行唄に暮れた工場も、今日は東天紅と告ぐる鶏鳴に明け。

何がそうさせたか、一九三一年型モダン風景などと洒落てはならないぞ。

祝賀式出席者は至急祝賀式係へ御通報を乞ふ

### 住所の移動及訂正

- 居相泰一 蠶六 京都府天田郡上夜久野村字平野
- 尾藤省三 蠶十 茨城縣第一蠶業試驗場(自宅、水戸市外常盤村松本坪)
- 岩瀬三郎 蠶十三 山形縣蠶業試驗場附設桑園(山形縣農事試驗場構内)
- 神林正一 蠶十七 長野縣埴科郡五加村宮城金司方
- 村田一由 蠶十八 本校蠶絲化學教室
- 竹内直人 蠶十八 長野縣小縣郡和村
- 藤澤千蔭 蠶六 昭和六年九月廿日死亡
- 糸十八 神戸生絲検査所(神戸市濱邊通)
- 酒井淳夫